

後悔しない デジカメは これだ！

豊富なライブラリから上手に選ぶ

Text

星野万三 大谷和利 山田久美夫

Illustration

まつばらあつし 竹澤宏

Photo

たかしまてつを
竹澤宏



デジカメ選び
10のチェックポイント



デジカメが欲しいと長いこと検討してきたけれど、
もう我慢できない。

価格も落ち着き機能的にも申し分なくなってきたので、
ここでひとつ購入しようじゃないか！

本特集はそんな方々に送る特集だ。

画素数で分けた各クラスごとに、

購入する時に検討すべきチェックポイントを設けてみたので、
ぜひ参考にしてほしい。

1台あると便利で楽しいデジカメ。

これを機会にあなたの1台を決定してみよう！！

急激に普及してきたデジカメ

昨年12月に大阪ドームで行われた「Mac Fan Expo in Kansai '97」で、今までになく目立ったのがデジカメを使って各メーカーのブースやイベント会場を写している人の実に多かったことだ。会場のあちこちで、一緒に来場した家族や友人らと、撮影した画像をのぞき込んでいる様を見かけた。

彼らの持っていたデジカメの多くは、35万画素～80万画素クラスの、フィルムカメラにすればいわゆるポケットカメラの部類に入るものが多かった。毎月のように新機種が発売される今のデジカメを取り巻く環境にあって、彼らは何を基準に、そのデジカメを選んだのだろうか？

デジカメの利点は、手軽で楽しく、安心できること

デジカメに比べ、フィルムカメラは意外に不便なことも多い。たとえばExpoの時に行われる基調講演などは、通常場内を暗くしてしまうのでカメラの撮影はストロボをたくことが多く。しかもカシャ、カシャとシャッター音が出る。周りが静かなだけに、あれってけっこう気になるものだ。主催者側はそのためか、あらかじめ場内アナウンスで「写真撮影は周りの人に迷惑になるのでおやめください」と、アナウンスする(ほかにも肖像権や著作権も絡むのかもしれないけど)のだが、デジカメで撮影していれば音は出ない。

また、撮影はしてもいいのだけれど、ストロボの使用を禁止する場合もある。アナログのカメラならシャッタースピードを遅くして対処することになるのだが、三脚がなかったり被写体が動くとブレてしまう。しかし、デジカメなら暗さに強いので安心だ。しかもいきなり立ち上がったたり、場内をウロチョロしない限りは、まず撮影をしていること自体が他の人には気づかれることもない。さらに、液晶モニタ付きのものなら、撮影した画像をその場でチェックでき、使用に耐えうるものかも確認することができる。できあがりの心配をしなくて済むのもとても嬉しい。

カメラとデジカメは別物？

演奏会や美術館など撮影禁止の場所はたくさんあるけれど、最近のデジカメには音も記



10 **今！デジカメを選ぶ**
の判断基準はこれだ！

めまぐるしい勢いで新機種が登場するデジタルカメラ。ホームページ作成やメモ代わりに便利な35万画素クラス、操作性・携帯性に優れ、しかも高画質プリントが魅力の80万画素クラス、フィルムカメラにも負けない超高画質と、仕事にも使える機能を備えたメガピクセルクラス(100万画素)。一体どれを買ったらいいのか本当に悩む。衝動買いをすると決まったら後悔するもの。本誌がスズめる10のチェックを読んで、自分にあつたベストデジカメを選ぼう！

Text 星野万三

録できるし動画だって撮れるものもあるので、一概にカメラとして扱うわけにもいかない。これからは「カメラおよびデジカメでの撮影や録音はお断りいたします」なんてアナウンスや貼り紙が出るかもしれない。

デジカメって、今まではフィルムカメラ(主にポケットカメラ)の代わりとか、レンズが180度回転するデジカメが爆発的に売れたりして、フィルムカメラの変形タイプのように考えていた人が多いと思う。しかし実はカメラとは違う記録媒体として、もう独自の路線を歩み始め

ているように思える。もちろんビデオやカメラのように使って家族や子どもの成長記録を撮るのもいいだろう。フィルム代や現像代がかからないので、コストパフォーマンスは結構高い(ただし機種によっては電池代がかさむ場合もある)。しかも撮影したあとのハンドリングの良さが、フィルムカメラの比ではない。気に入った絵柄だけをプリントアウトしてアルバムだつてとても簡単に見やすいものができるし、ハガキにだって、アートにだって、そしてメールなどを使って、遠方の人にその画像を瞬時に送ることだってできる。

デジカメは価格破壊の申し子

デジカメは、以前はおもちゃみたいなボディで値段だけは高級一眼レフのみ。画質は粗く、しかもバッテリーは大食いと、カメラ愛好家の間でも評判がイマイチだった。しかし最近では各メーカーとも個性のある、使って楽しく持って嬉しい機種を出している。激しいデジカメ競争に生き残っていくには、フィルムカメラ以上にカメラそのものを差別化する必要もあるのかもしれない。しかも値段がエッフェル塔からのバンジー・ジャンプのように急激に下がってきたので、Macを買うときほどの清水の舞台感もなく、飛び降りるのもかなり楽になってきた。

そろそろ1台手元に欲しいな……、と考えている人はかなり多いと思う。その潜在的ユーザーがまだデジカメユーザーになれない理由には、次から次へと新しい機種が発売され、どれを買っていいのやら購入のタイミングを見失っているからだろう。しかし、自分の利用用途を考えてみれば、自ずと答えはでてくるもの。必ずしも新しい機種ではなくても、自分に合ったデジカメなら楽しいこと請け合ひだ。次ページからのチェックポイントを参考に、自分のデジカメを見つけてみよう！



35万画素 デジカメは ここをみる!

現在デジカメの主流は35万画素クラス。
価格は5~8万円台に集中しているが、実売価格では2万円台もある。
内蔵メモリのみや液晶モニタのない機種もあるので、
安いからといって安易に飛びつかないほうが賢明。
店頭で納得いくまで見比べる余裕がほしい。

1 まずは記録メディアをチェック!

初期の35万画素デジカメのほとんどは携帯性を優先するため、記録メディアは内蔵フラッシュメモリのみを使用していた。そのため、メモリいっぱいまで撮ってしまえば、ただちにMac側にデータを移さないと続きを撮ることができなかった。しかし最近では、スマートメディアやコンパクトフラッシュのような小型記録メディアが安価に、しかも一回の用事で撮影するには充分なほど容量も大きくなっている。このタイプのメディアを使用する機種が増えてきた。これからは35万画素クラスと言えども、入れ替え可能なメディアのほうが便利だろう。ただし、初代から人気のあったCyber-shot DSC-E3はかたくなに内蔵メモリを使用しているが、容量は8MB。ファインモードで60コマ、最大で200コマも撮れるので、これなら日常でメモリ不足になることはまずない。

2 液晶モニタの有無をチェック

デジカメのいいところは撮ったその場で再生表

示ができることだ。またデジカメ、特に35万画素クラスの利点は、なんと言っても手軽に楽しめる点。液晶モニタは必須だろう。

現在、液晶モニタの多くはTFT液晶モニタと呼ばれるタイプが使用されている。最近では「低温ポリシリコンTFT」というタイプが画素密度が高く、画面表示がとても美しいので人気があるが、コストの関係もあり35万画素クラスでの普及度はまだまだ。低温ポリシリコンTFTを採用している機種としてはDS-30がある。

3 バッテリーをチェック

デジカメの小型化と軽量化で大きなネックとなるのがバッテリーだ。専用の充電電池を使用している機種もあるが、一般にはどこでも手に入れやすい単三電池を使用するタイプが多く、どこでも入手可能なのでバッテリーは単三電池でOKだ。ただし、液晶モニタを使っている撮影だとどうしても電池の消耗が激しいので、「出かけるときは忘れずに」のセリフではないが、屋外で長時間の撮影が予想される時は、必ず予備の電池を多めに携帯していたほうがいだろう。

4 ストロボをチェック

デジカメは暗さに結構強い。部屋の蛍光灯や夜の街あかり程度でも結構写ってしまう。しかし拡大してみるとよくわかるのだが、暗いところで写した画像は粒状性が悪く、しかも手ブレしていることが多い。少ない光量でシャープに写すためには大口径の明るいレンズが必要なのだ。35万画素カメラではレンズにかけられるコストに限界があるため、暗いところではやはりストロボが威力を発揮する。またストロボ光は逆光での人物撮影などにも効果があるので、暗さに強いデジカメといえどもストロボは必需品だ。



Cyber-shot、DS-30は比較的バランスよくチェック項目を満たしている。小型のCOOLSHOT IIIはオプションで小型ストロボがある

Check Point

- メモリの種類
- 液晶モニタの有無
- バッテリーの種類
- ストロボの有無
- マクロ機能
- デザインとサイズ
- 価格



35万画素クラスデジカメで使われている主な記録メディア。小さく黒いのは「内蔵メモリ」



バッテリーは専用のものから、コンビニでも購入できる単三電池がある。液晶モニタをファインダ代わりに使っている撮影は思いのほか電池を消耗するので、量販店などで大量に用意しておくのがベスト



液晶モニタがあると撮った画像をすぐ確認できる。フィルムカメラにはないポイントだ



マクロ機能があると、名刺などの文字も撮影できて便利



低温ポリシリコンTFTを採用しているDS-30。美しい表示が確認できるだろうか?



暗さに強いデジカメだが、逆光での撮影などでは威力を発揮する

Text 星野万三



80万画素 デジカメは ここをチェック!

デジカメの画質を決める最大の要素はCCDだ。1つの素子は出力の際に1ドットに対応しているの、画素数が多いほど多いほど出力サイズも大きく、またより精密な画像になる。

80万画素デジカメは、操作性は35万画素クラス、画質はメガピクセルに近く、理想の形態を持つデジカメだ。

5 単焦点かズームかをチェック

レンズ交換のできないデジカメでは、広角から望遠まで1本のレンズでこなすズーム機能はとても魅力だ。35万画素クラスではコストの関係もあり装備している機種は少ないが、80万画素クラスのデジカメでは、CAMEDIA C-1000L、CP-500、DC 120 ZOOMの3機種がズーム機能を搭載している(98年1月現在)。

ただし、ズーム撮影した画像はズームを使わない画像と比べて画質が落ちる場合もある。ズーム機能は必須ではないが、利用目的を考えて選択しよう。

6 液晶モニタをチェック

本特集の最後に設けたデジカメカタログに掲載した5機種の80万画素クラスは、すべて液晶モニタを装備している。デジカメの液晶モニタにはアクティブ素子と呼ばれるスイッチング回路を装備した、アクティブマトリクスと言われる駆動方式が使われている。TFT液晶モニタとはそのアク

ティブ素子に薄膜トランジスタ(Thin Film Transistor)を使うのでこのように呼ばれている。

最近このTFT液晶モニタに「低温ポリシリコンTFT」と呼ばれる画像表示がとても美しい液晶が登場した。低温ポリシリコンTFTは、従来のTFTサイズを1/5~1/10まで小さくすることができ、画素密度を高めつつ少ない光量でも十分な明るさを確保できる。そのため、バックライトの節約により従来より電池の消耗が少なくなり、デジカメにはまさに最適な液晶モニタなのだ。今回紹介した80万画素クラス5機種の中では、CAMEDIA C-1000LとDC 120 ZOOMをのぞく3機種が2インチの低温ポリシリコンTFT液晶モニタを装備している。ただし、Macに画像を取り込むと、液晶で確認できた画像とMacに表示された画像では美しさに違いが生じる。

7 ファインダをチェック

デジカメの特徴として液晶モニタをファインダとして使うことができるが、液晶モニタは大量に電池を消耗するので、最近では光学ファイン

ダを別に備えている機種が多い。一回の撮影枚数が多い方は光学ファインダは必須だ。今回紹介している5機種はすべて光学ファインダを搭載しているが、ファインダ部とレンズ部とが別々のため、ファインダに写る画像とレンズを通して実際に写る画像とで若干のズレ「パララックス」と呼ばれる視野の差が生じるので注意が必要だ。

CAMEDIA C-1000Lは、このズレを一眼レフと同じ方式の、レンズからの光をプリズムによってファインダとCCDとに分けることで解決している。



CAMEDIA C-1000Lのレンズは35mmカメラ換算時で50~150mmとやや望遠よりシフトしている

Check Point

- ズーム機能の有無
- 液晶モニタの種類
- 光学ファインダの有無
- デザインとサイズ
- アクセサリは豊富か
- バッテリーの種類
- マクロ機能の有無



あると結構便利になるズーム機能。撮影したいものが、ある一定距離を保っていない状況が多い方は、ズーム機能はあると便利



同じ80万画素クラスでもデザインはこんなに異なる。携帯性重視か、一眼レフ、ズーム機能搭載か、使用目的により自分の使用機種は選んでく



左がTFTモニタ、右が低温ポリシリコンTFT。見比べると違いがわかる



パララックスがどの程度起こるか確認しよう



DC 120 ZOOM用の外部ストロボ用ターミナル。80万画素クラスともなると、より美しく撮影するためのアクセサリも出てくる右側にあるのは専用PCカードアダプタ。



オーバー 100万画素 デジカメは ここを見逃すな!

100万画素クラスともなれば明らかに画質は向上し、出力も美しい。しかし、それに伴ってMacでその画像を扱うには相応のメモリとCPUパワーが必要。メガピクセルを快適に使うには、カメラ以外にもそれなりの出費を強いられるのだ。

8 フォーカシングをチェック

普及型のデジカメで、被写体に対しピントを合わせる方式でいちばん使われているのが「固定焦点」だ。固定焦点は「絞りを絞込むことでピントが合う範囲(奥行き)を広げることができる」というレンズの特性を活かした方式。実際にはファインダーから見えている風景のある部分にピントが固定されるため固定焦点と呼ばれている。

シャッターを押せば誰でも撮影ができる方式だが、特定の被写体にピントが合っているわけではなく、風景全体を写し込んでいるため、ピントの甘い画像になりがちだ。

これに対し、被写体までの距離を測りピントを合わせ方をAF(オートフォーカス)という。当然固定焦点よりは目的の被写体に対してよりピントを合わせられるのだが、一般のデジカメに使われているAFは、3~5段階程度で調整しているくらいの機能だ。一眼レフカメラのようにピントをフォーカシングしているデジカメとしては、CAMEDIA C-1400LとDS-300がある。特にDS-300は通常AFだけでなく、マニュアルでのフォーカスもでき、ま

にフィルムカメラと同じ感覚で撮影ができる。

9 読み込み速度をチェック

フィルムカメラでは一瞬の光をフィルム膜面に感光させるので、最近の高級一眼レフでは1秒間に5コマの連続撮影も可能だ。しかしデジカメはCCDで受けた光の信号をメモリに書き込まなくてはならない。読み込むデータが大きければそれだけ保存するのに時間を費やす。そのためデジカメにとって連写は実に苦手の撮影技術だ。

DS-300は本体のみでは秒間1枚程度の撮影しかできないが(それでも結構デジカメとしては速い)、オプションのエクステンションユニットを装着すると最大秒間4.5コマで連続12枚まで撮影が可能。写真を撮る対象が動きのあるスポーツや動物なら連写機能は必要だ。

10 PCカードリーダーは必需品

ハイエンドクラスで撮影した画像は35万画素クラスと比べると質や粒状性はいい。しかしこのクラスになると直接プリントをするより、

一度Macにデータを移して、PhotoshopやLive Pictureで画像処理をする必要性が高くなる。カメラにはシリアルポートやビデオポートが必ず付いているが、シリアルでのデータ転送はとて時間がかかる。また高画質での撮影にはかなりのメモリ容量も必要だ。そこでデータ転送のためにPCカードリーダーが必需品となる。

また、記憶メディアはPCカード型のメモリ、コンパクトフラッシュ、スマートメディアの順で容量は大きくなる。DS-300ならPCカード型のメモリをカメラ自身に装着できる。どの機種でも、PCカード経由で画像転送できるが、自分に必要なメモリ容量で機種を絞るものいいだろう。



実際、プロの使用目的に耐えられるレベルにあるのはDS-300、かろうじてCAMEDIA C-1400Lだ

Check Point

- 固定焦点かAFか
- マニュアル機能の有無
- 連写は可能か
- メモリ容量
- アクセサリーは豊富か
- バッテリーの種類
- 仕事で使えるか



一眼レフフィルムカメラなみのAF機能を搭載しているDS-300とCAMEDIA C-1400L。プロカメラマンが仕事に使えるレベルだ。写真はDS-300のAFモード



秒間4.5コマで連続12枚の連写が可能なエクステンションユニットをDS-300に付けたところ。動きのあるものを撮影する機会が多いなら、絶対に必需品となる



DS-300に搭載されているマニュアル設定ボタン。デジカメで完全なマニュアル撮影ができるのは、まだDS-300しかない。今後が期待される機能でもある



記憶メディアに合ったPCカードアダプタは、1枚でも画像データの重い100万画素クラスには必需品。これさえあれば、大容量のデータも素早く取り込むことができる

メディアから選ぶ デジカメ 目的別最適 メディアはこれだ!!

結論! 最適メディアはスマート メディアとコンパクトフラッシュ

結論から先に言ってしまうと、ページタイトルの「メディアから選ぶデジカメ」とは、オールマイティな使用が可能ということで現在のところPCカード経由でデータの転送が行えるものだ。

つまり、35~80万画素クラスまでなら、スマートメディアかコンパクトフラッシュを使用できる機種がいいだろう。また100万画素クラスのデジカメは、1枚の画像データが重いため、PCカードアダプタもしくはPCカード型メモリを利用しないで画像転送を行うことは、スピードと容量の点からあまり現実的ではない。ということは、メディアから選ぶデジカメとは35~80万画素クラスまでになる。

スマートメディアと コンパクトフラッシュが主流

スマートメディアとコンパクトフラッシュは、すでに現在の記憶メディアの主流になり、多くの製品がこのどちらかを採用している。また4MBのスマートメディアとコンパクトフラッシュでは、それぞれノーマルモードでの撮影枚数は80枚程度ある。一般の方が一回に撮影する枚数としては十分だろう。しかもフィルムカメラとは異なりうまく撮れなかったものはデータを削除することができるので、撮影枚数はすべて必要な写真で占めることができる。記憶メディアの価格も比較的手に入れやすい価格になっているし、1枚のメディアの記憶容量も、今後はさらに増えていくものと思われる。

PCカードアダプタとPCカード リーダーは必需品

スマートメディアやコンパクトフラッシュを記憶メディアに使用しているデジカメから画像をデスクトップ型のMacに転送する場合、シリアル接続で

デジカメは本体に内蔵されたフラッシュメモリや、さまざまな外部記録メディアを利用して画像を記録する。

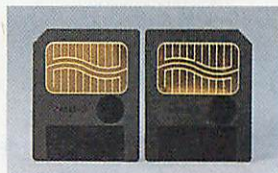
初期のカメラではほとんどが内蔵タイプだったが、最近では大容量な小型メモリーカードが低価格になったこともあり、外部記録メディアに人気が集まっている。デジカメは高級一眼レフカメラとは違い、1台持てば永久に使えるというものでもない。

35万画素カメラには携帯性と使い易さ、80万画素やメガピクセルカメラには、高画質とカメラとしての写す楽しさがある。

複数台のカメラを持ったとき、記録メディアが共通ならば使い回しもできて経済的だ。

購入時にはどんなメディアを使用しているのかもきちんとチェックしよう。

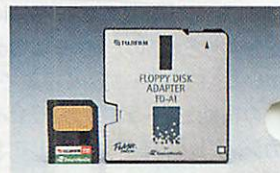
Text 星野万三



5V用(左)と3.3V用(右)の2種類があるスマートメディア。今の主流は3.3V



PCカードリーダーがあれば、画像転送は格段にスムーズになる



フラッシュバス「FD-A1」。画像の転送が楽になるほど、デジカメは便利になる

も画像の転送は可能だがスピードが遅く、かなりの時間を要する。デジカメのACアダプタがないと転送の最中に電池切れを起こすのは必至だ。また画像転送ソフトのインストールやその設定が面倒だし、うまく取り込めるようになるまでには七転八倒することも多い。そんな手間や時間を省くためにも、PCカードリーダーを経由して画像を取り込めると便利なのだ。

スマートメディアなら こんなこともできる

スマートメディアの場合には、富士写真フイル

ムのFD-A1「フラッシュバス」と言う、3.5インチのフロッピーディスク型アダプタがある。すべてのパソコンに標準装備されていると言っても過言ではないくらい普及しているフロッピーディスクドライブが使用できれば、フロッピーも暖かいままで済む。ただし、このFD-A1は、Macにはまだ未対応。早期の対応を望む。

さらに、富士写真フイルムからはスマートメディアを直接プリンタに差し込むことによってデータをプリンタに転送し、印刷できるTA方式デジカメ専用プリンタ「TX-7」なんてものも出ています。印刷紙にCMY(シアン、マゼンタ、イエロー)各色に発色する層が塗布されており、昇華型と同じようにドッ

ト単位で階調をコントロールできるため、極めて写真画質に近いプリント出力ができる。

画像の転送を目的にしないなら フラッシュメモリでもOK

初期のデジカメに内蔵されていたフラッシュメモリは、ほとんどが1MB程度だった。そのためファインモードではたったの2〜4コマしか撮れないカメラもあった。しかし最近では機種に限りはあるが、ソニーのCyber-shot DSC-F3の内蔵メモリが8MBという大容量となり、200コマもの写真を撮影することができるようになった。Macへの画像転送はシリアル接続がメインとなるが(赤外線の利用もできる)、撮影した画像を液晶モニターで、またテレビの画面に写し出して楽しむのがメインなら、これもまったく問題はない。むしろメモリの紛失や壊

れる心配がなく気は楽だ。

撮った画像を記念にあげたい

MacやWindowsといったOSの違い、パソコンとの接続の手間がまったく必要ないのが、フロッピーディスクを記憶メディアに使用しているDigital Mavica。カメラの大きさがフロッピーディスクより小さくできないという携帯性はイマイチだが、撮った画像をフロッピーディスクですぐに誰かにあげられる手軽さがある。メディア価格もいちばん廉価。

音楽も聴きたいならMDデジカメ

DSC-MD1とMD-PS1は、記録メディアに音楽で人気のMDを使っている。MDは1枚で140MBと大容量なため、最大で2,000コマの撮影が可能(音

楽用MDとはフォーマットが異なるため専用のMDデータディスクが必要)。カメラとして使わないときは録音/再生が可能なMDウォークマンにも変身する。ただし、記録した画像をパソコン側へ転送するにはシリアルポートか赤外線ポートで行う。画像書き込みも転送速度も遅いのが難点。



直接スマートメディアからプリントアウトできる「TX-7」。パソコンへの画像転送やプリンタの接続という手間を省いた



スマートメディア

東芝が提唱する規格で、富士写真フイルムのDSシリーズやオリンパスCAMELIAシリーズなど、35万画素から100万画素タイプまで広く採用されている。現在は最大で8MBと容量的にはやや物足りないが、厚さ0.76mmと薄く、カメラの小型化には必需のメモリ。8MBで8,000円程度とソコソコの価格なので予備メモリとしても買い足しやすい。以前は5Vのみだったが、3.3Vの省電力タイプも新たに登場。機種によっては互換性のないものもあるので、購入時には注意が必要だ。



PCカード

もともとノートパソコンなどの外部拡張インターフェイスとして規格化されたカード。デジカメの記録媒体としてはPCMCIAのフラッシュメモリカードが使われている。容量が大きく、低消費電力、高速なアクセススピードとまさにデジカメ向けのメモリ。しかしカードサイズが大きいので直接デジカメに装着するには不向き。一般には小型メモリカードをPCカードを介してPCMCIAスロットに差し込んでドライブとして認識させる「PCカードアダプタ」に人気が集まっている。



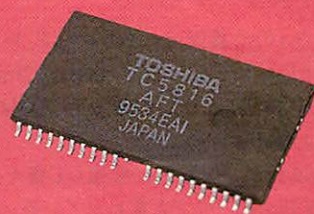
コンパクトフラッシュ

San Diskが提唱する規格で、コダックのDCシリーズ、コニカQ-M100などに採用されている。PCカードと同じようにメディアにATA/IDEインターフェイスをエミュレートできるコントローラLSIを内蔵しているので、書き込み前に消去しなくてはならないフラッシュメモリの特性を無視できる利点がある。LSIのコストがかかるので割高感があるが、メディアの容量は現在最大30MBにもおよび、高画質での撮影や一度に大量撮影をする人にはとても便利。



MD

シャープのMD-PS1、ソニーのMD Cyber-shot DSC-MD1に採用されているメモリは、音楽用記録ディスクとして人気のあるMD(ミニディスク)。1枚で約140MBもあり、最大2,000コマの画像が記録できる大容量記録メディアとしても注目を浴びている。音楽用とはフォーマットが異なるため、専用の「MDデータディスク」が必要だが、メディアの価格が1枚2,000円程度なので、コストパフォーマンスは非常に高い。ただし書き込みに時間がかかるのが難点。



内蔵メモリ

カシオのQV-10やApple QuickTake 100など初期のデジカメのほとんどは内蔵のフラッシュメモリを使用していた。フラッシュメモリは記憶したデータを電氣的に消去できる、書き換えが可能な読み出し専用のメモリで、チップサイズをコンパクトにできるのが特徴。初期のカメラでは1MBのメモリが多かったが、最近発売されたソニーDSC-F3は内蔵で8MBと大容量のメモリを装備している。また、エプソンのCP-500は、コンパクトフラッシュのほか内蔵メモリも搭載されている。



フロッピーディスク

パソコンを使っていれば誰でも必ず持っているのがFD(フロッピーディスク)。ソニーのDigital Mavica MVC-FD7とMVC-FD5は記録メディアとしてこのFDを使用している。最大1.44MBと容量としては物足りないが、コンビニなどで売っているので手に入れやすいメディアで、しかも安価なのが魅力。撮り終えたデータは直接パソコンへ取り込めるので、別売で付属品などを購入しなくてもいい。カメラサイズが大きくなるのと、書き込みに時間がかかるのが難点。

要チェック! 将来性で選ぶ デジカメのトレンド

170年にも渡る長い時間の中で
進化してきたフィルムカメラに比べると、
デジカメの歴史は
ただかここ数十年ととても浅い。
それだけに各メーカーとも
次々と新しい規格を打ち出し、
業界での主導権を握ることに躍起だ。
今すばらしいと思うテクノロジーだって、
2、3年後には誰にも
見向きもされなくなっているかもしれない。
そんな不安を抱えつつ現段階での
デジカメの将来を考えてみよう。

TREND 熟成の時を迎えつつあるCCD

デジカメの心臓部分にあたるのは、レンズを通して入ってくる光が結像する部分にあるCCDだ。CCDはCharge Coupled Device(チャージ・カプル・デバイス)の略で、大きさは1/4~2/3インチの四方形(1インチは2.54センチ)。

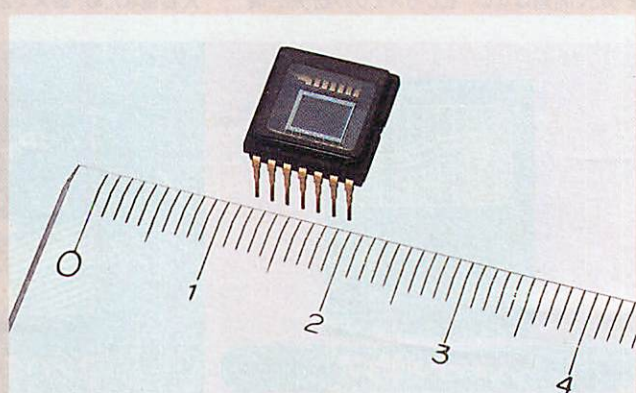
CCDは光量を静電気に変換して蓄えることのできる素子の集合体で、電荷結合素子などと言われている。カタログなどに書いてあるデジカメの35万画素や100万画素とは、この素子の数を表している。1つの素子は画像での1ドットにあたるわけで、画素が多ければ多いほどより精密な画像になり、出力サイズも大きくなる。

TREND CCDにはデジカメ専用とビデオカメラ用とがある

現在デジカメで使われているCCDには、デジカメ専用に開発されたCCDとビデオカメラで使われているCCDの2つがある。

パソコンで画像を扱うには画面の縦と横の比を3:4にしなければいけない。日本のパソコンはアメリカのNTSC方式が使われているので、走査線数は525本だ。この525本のうち画像として使われている走査線は480本で、これから横方向を計算すると640という数字が出てくる。この480×640がパソコンのVGAモードになるのだ。

このVGAモードで図形や画像の信号処理をするには画素が正方形でできている方が処理しやすいといわれている。そのため、デジカメのように最初からパソコンでの画像処理をするためにはCCDは正方形の方が処理しやすい。

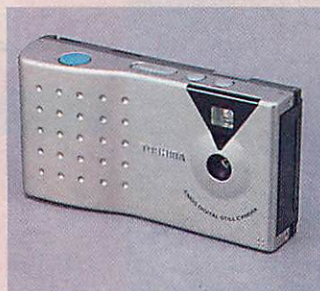


デジカメに採用されている1/4インチカラーCCD(ソニーの「ICX098AK」)。サイズは1cmにも満たない小さなものだ

デジカメ専用のCCDは正画素といい、個々の画素が正方形でできている。正画素の利点は縦横比を変える必要がないため画質の劣化を防ぐことができる。これに対して、ビデオカメラで使われているCCDは長画素といい、素子自体が6:7と若干縦長になっている。ビデオ信号として読み出しやすい形になっているわけで、このためパソコンでの画像データを形成するときに縦横が同じ比になるように補間をしなければならない。

もうひとつデジカメ専用とビデオカメラ用で違うのは、蓄えられた静電気の取り込み方法だ。デジカメ用では「プログレッシブスキャン」という方式、ビデオ用では「インターレース」という方式を使っている。

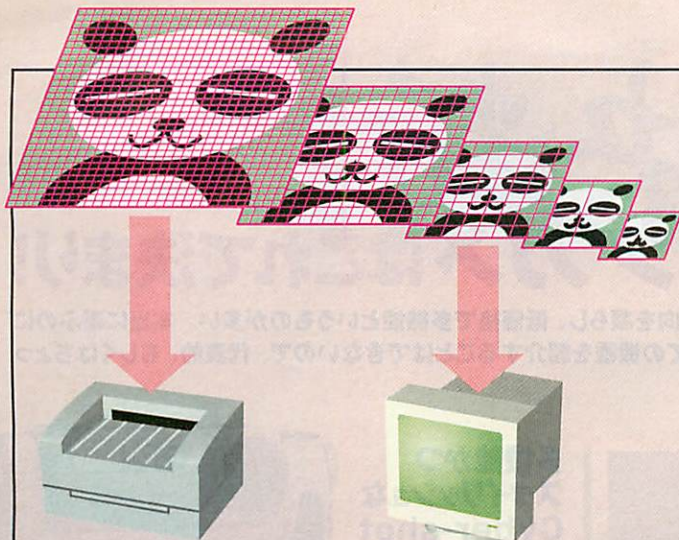
プログレッシブスキャン方式では、左上から順にすべて取り込むが、インターレース方式では人間の目の錯覚を利用して最初に奇数ラインを、次に偶数ラインを60分の1秒ごとに取り込む。静止画を撮影するデジカメでは動きのある被写体を写すと、イン



日本国内ではじめてCMOSを搭載したデジカメ、東芝の「Allegretto PDR-2」



Allegrettoの詳細情報は、<http://www2.toshiba.co.jp/d-came/index.htm>で得られる



FlashPixは取り込んだデジタル画像を最小サイズ64×64ピクセルまで1/4ずつ解像度を下げた階層構造を持つ。また、すべての画像は64ピクセル四方のタイルに分割され、タイルごとの加工が可能

ターレス方式の場合、奇数ラインと偶数ラインが微妙にずれてしまう欠点がある。この欠点は奇数ラインと偶数ラインが光を受け続けているために起こるので、機械式シャッターをCCDの前に置き、撮影の時のみ光を受け、その後光を遮断して全画素の取り込みを行い、余分な情報を得られないようにしてブレを防いだ。最近のデジカメのほとんどが正画素を使用するようになってきているが、現行機種の中にはインターレス方式もまだある。

TREND 省エネ低コスト 将来性抜群のCMOS

デジカメにはなくてはならないCCDなのだが、最大の難点が電力の消費量が大いことだ。そこで登場したのがCMOS(Complementary Metal-Oxide-Semiconductor)というセンサー。

CMOSセンサーはCCDと同じく光を電気信号に変換する受光素子だが、CCDと比べて消費電力が約1/10という省エネタイプだ。東芝「Allegretto」には1/4インチ33万画素のCMOSセンサーが搭載されている。Allegrettoは液晶モニタを装備していないこともあって、リチウムバッテリー1本で約500枚の撮影が可能だ。

現在のところS/N比、解像力、色調、階調などはCCDに劣っているが、製造工程がLSIと同じなのでコントローラやメモリと同じパッケージに組み込むことが可能で、将来デジカメを1チップ化することができる。これにより今後はより低コストでのデジカメとしておいに期待されている。

TREND これは便利！ 赤外線通信「IrTran-P」

デジカメで記録した画像データをパソコンやプリンタに送るには通常シリアルポートを利用する。PowerBookやカードリーダーを利用すればPCカードを利用して直接データ転送することもできるが、最近注目を浴びているのが赤外線通信だ。

赤外線通信には業界標準にIrDAがあるが、ハードウェアを制御す



IrTran-Pでメーカーの枠を越えたデータのやり取りができるようになる。詳しくは <http://www.osw.co.jp/irtranp1.htm>



FlashPixの詳しい情報や、FlashPix Viewerをダウンロードできるホームページ。URLは <http://www.kodak.co.jp/>

る規定以外具体的なデータのやり取りまでは規定されていない。そのため赤外線ポートを内蔵した機器同士でもメーカーや機種が違えば互換性がなく通信ができなかった。

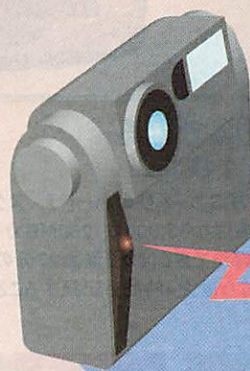
そこで策定されたのが、ソニー、シャープ、カシオ、NTTなど各社が参加して、既存のIrDA規格に画像フォーマットや転送プロトコルなど具体的な使用を策定した「IrTran-P」と呼ばれる規格だ。これによってIrTran-Pに対応している機器同士ならばメーカーや機種を問わず相互に通信ができるようになった。対応製品にはソニーのDSC-F3、DSC-MD1、シャープのVE-LC2などがある。

TREND 画像形式の主軸となりそうな 「FlashPix」

新世代の画像形式として注目を浴びているのが、Eastman Kodak、HEWLETT PACKARD、Live Picture、Microsoftの4社が共同で開発した「FlashPix」だ。

FlashPixは、ピラミッド型の階層構造を持つ圧縮保存形式で、さまざまな解像度のデータが1つのファイルに記録されている。そのためサムネイルを表示するときは低解像度のデータを、プリントアウトをするときは高解像度のデータをといた具合にひとつのファイルであらゆる条件に対応できる夢のような画像形式だ。

コダックのメガピクセルカメラ「DC 210ZOOM」にはこの画像形式が採用されている。



IrTran-Pとは「赤外線により画像を確実に転送し表示する」というコンセプトの元、日本国内5社(日本電信電話(NTT)、カシオ計算機、シャープ、ソニー、オカヤシステムウェア)が共同開発した「デジタルカメラの画像転送方式の統一規格」。Macではまだ対応していないが、プリンタでは対応している機種もある

最終決断!

今買うローエンドデジカメはこれで決まり!

35万画素クラスのデジカメは数も多く、各メーカーがそれぞれ趣向を凝らし、低価格で多機能というものが多い。本当に選ぶのには一苦労してしまう。スペースの関係上からも、このページですべての機種を紹介することはできないので、代表的、もしくはちょっと面白いデジカメをピックアップしてみた。



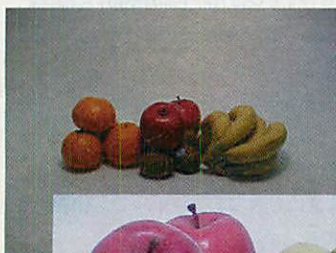
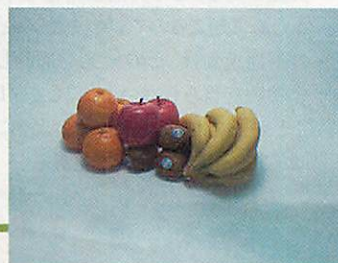
毎日持ち歩くな COOLSHOT II LK-RQ1Z

とにかく小さいカメラ。でも毎日持ち歩くには小さいことはやはりいいこと。特に女性にとってはね。サイズは小さくても1.8インチの液晶モニターも装備、機能に不足がないところがすごい



多機能かつ スタイリッシュな Cyber-shot DSC-F3

180度回転するレンズ部分や、マニアックな操作ボタン類。さすがソニーの作るカメラはカッコイイ。少し前の過去まで撮れる「タイムマシン連写」機能や、1画面を左右2回に分けて写す「ダブルショット」など楽しい機能もあるぞ。



リコーDCシリーズの上位機種 DC-3Z

DCシリーズの上位機種となるDC-3Zは、3倍ズームレンズを搭載し、白黒モードでの撮影も可能。液晶モニターの開閉によりカメラの電源も自動的にON/OFFが行われる。電源の切り忘れのない親切設計だ。



片手で簡単操作の Card Shot NV-DCF1

操作ボタンやスイッチ類のほとんどを背面に配置し、すべての機能を背面だけから一別できる。フロッピーディスクとほぼ同じ大きさのスクエアデザインのため片手で操作して片手で撮影もできる。液晶モニターも角度が変えられるので、撮影する画像を確実に確認できる。キャノンの「PowerShot 350」、コニカの「Q-mini」も同等の性能を持つ。



動画も記録できる MP-EG 10

記憶メディアのPCカード型のハードディスクを採用し、静止画像なら3,000枚(260MBカード使用時)の記録ができるほか、最大27分の動画、音声だけでなく最大4時間も記録することができる。





大谷和利
Kazutoshi Ohtani

Mac Plusの画像入力用に購入したスティルビデオカメラから電子カメラに親しみ、QV-10でデジタル解説書をいち早く執筆。銀塩はステレオ、パノラマ、軍用カメラを愛好。デジタルカメラマガジン(インプレス刊)に寄稿中。

リードでも触れたように、VGA解像度以下をカバーする普及型のデジタルカメラは、映像情報ツール的な意味合いが強い。そして、個人的に情報ツール系デジカメに求める要素には4つのポイントがある。

まず、液晶モニターがついていること。これはその場での撮影イメージの確認や他人とのコミュニケーションに欠かせない仕様だ。

次に、記憶媒体に着脱式のメモリアカードを採用していること。スマートメディアやコンパクトフラッシュなどのメモリアカードは、撮影枚数の制限をなくすと同時に、アダプタを介してPowerBookなどのPCカードスロットに直接挿入してのデータ転送を可能にする。

3つめは、ビデオ出力端子を備えていること。これは撮影イメージを大人数で楽しんだり、直接デジカメからのプレゼンテーションを行う場合に不可欠である。

DS-30

25~35万画素級CCDを持つデジカメにももちろん画質重視の製品はあるが、基本的には情報ツールとしての意味合いが強い。その観点で選んだのはDS-30だ。

そして最後は、乾電池で駆動できること。省エネが進んだとは言っても基本的にデジカメの消費電力は大きい。いざと言うときに、どこでも手に入る乾電池への対応は重要だ。

フジフイルムのDS-30は、乾電池駆動に関してはオプションのバッテリーケースを利用する変則技だが、このすべての要素を満たした製品だ。さらに、35mm換算で32~96mmの使いやすい3倍ズームを搭載して、撮影・再生時の処理もそこそこ速く、画質的にもクラス最高レベルのものが実現されている。多少分厚い感じのボディが難点だが、トータルバランスに優れた1台として、これを選びたい。また、真のエントリー機として考えるなら、カシオのQV-11が未だに失せないスタンダードの魅力を放っていると言えるだろう。

決断!
私の買いは
これ!

たくさんあるデジカメの中からベストバイを選ぶには消去法だ。まあ、妥協の産物と言えなくもないがハズレも少なく安全だ。とか偉そうなコト言っても、自分はそんなことぜんぜん考えてなくて、実は趣味やデザイン、あるいは実物を見たときの「ツブーン」とくるあの感覚で選んでしまうことが多い。実際それでハズレを掴んだことは少ししかない。中途半端な妥協より、思い付きの勢いで選ぶほうが正解だと思う。

で、純粋にカッコだけで選んだ場合のベストバイは「DS-10スケルトンモデル」。これはもう持っているだけでいいというデジカメ史上初の「性能抜きで物欲を刺激する」ものだ。もちろん衝動買いしました。店先でツブーンとききましたもん。きれいなお姉さんがデモしてたし、いや、そんなことじゃなくて、DS-10は何たって安いし、電池の消耗も少ない。でも、液晶も欲しいし、できればマクロ&ズームも。となると、次の候補は

「Digital Mavica MVC-FD7」。反則技的飛び道具とも言える10倍ズームにやたら長持ちする電池、液晶も大きくて見やすいメディアは安いフロッピー。コンセプトからしてほかのデジカメとは異なる土俵で戦っているような孤高の傑作。どこから見ても短所を捕って有り余る長所がある。唯一無二のデジカメだ。これは絶対ハズレではない。使えば図体のデカさも欠点でないのがわかります。

その他には、デザイン優先ならCyber-shot DSC-F3、画質優先ならDC-2S、撮影枚数ならMP-EG10、安くたくさん撮れてコンパクトならQV-70ってとこですかね。どれもハズレではないけれど一長一短アリ。その短が一番短いのがMVC-FD7ってことです。いやあ、やっぱり買おうかな、MVC-FD7。

このクラスのベストバイを選ぶのは、性能があまり変わらないだけに、キメ手を採るのが難しい。しかし、個人的なカメラが多いのもここ。好き勝手に決めちゃうから、ご覧あれ。

MVC-FD7



まつばらあつし
Atsushi Matsubara

発売されたばかりのQV-10を買ってからはデジタルカメラがメイン。もう1台のDS-10スケルトンもかわいい。性能で選ばないのがボクの自慢。元映画カメラマンのフリーライター&イラストレーター。



星野万三
Manzo Hoshino

Mac貧乏、カメラ貧乏、馬券貧乏の三大貧乏を独占すること早十年。最近はデジカメ貧乏も加わって、貧乏四天王についてリーチがかかった。ワールドカップに行きたいけどフランスはあまりにも遠し……です。

遊び心をくすぐる「イッツ・ザ・ソニー」のCyber-shot DSC-F3はシリーズ3回目のバージョンアップで、ますます楽しいデジカメになった。

まず相変わらずデザインがいい(と言っても初代から大きな変更点はないが)、さすが世界のソニーだ。いつもカバンに入れて持ち歩きたくなくなるかわいらしさがある。180度回転するレンズ部、コンパクトなボディながら高級感漂うツヤ消しのメタリック仕上げなんて細部まで手が込んでいる。

初代のF1から大きく変わったところとしては、まずメモリが8MBと倍増されたことだ。これによって内蔵メモリながら最大200コマまで撮影ができるようになった。そして赤外線画像通信規格のIr-TranPiに対応。対応機種であれば他メーカーのプリンタやパソコンにコードレスで

Cyber-shot DSC-F3

激戦地区の35万画素クラスだが、1台1台つぶさに見ていくと、それぞれ個性があっけおもしろい。各社マチマチで表現方法が違うのだ。そんな中で選んだのはCyber-shotだ。

高速データ転送ができる。シリアルコードもいらない。PCカードもいらない。勝手に画像が空中を飛んでいくなんてさすがソニーさん。カメラを、写す道具だけにしていないのがいいね。

その他にも左右半分ずつ撮れるダブルショット撮影とか、写真が動くアニメ撮影、再生機能とか、ベストショットを逃がさないタイムマシン連写、モノクロ撮影や、セピア撮影などレトロ色調での撮影もできる。

ソニーの35万画素デジカメにはその他にメモリをフロッピーにしたDigital Mavicaとか、MDデータディスクを使用して最大2,000コマまで撮影のできるMD Cyber-shot DSC-MD1など、いずれ劣らずユニークな機種があるが、いずれも図体がデカくなり機動性には欠けるし、遊び心も少ない。やはりピカールはCyber-shot DSC-F3だね。これ絶対におすすめ!

高画素クラスが揃ってきたとはいえ、まだ現在はVGAクラスが主流だし、一番バリエーション豊かで個性的なモデルが数多いのも事実。とはいっても今後は高画素クラスが台頭してくるので、単に高画素を狙うならVGAクラスは避けた方がいい。となると、VGAクラスはやはり、軽快で、持っても構っても楽しいモデルを選びたいものだ。

そんな基準でカメラを選ぶと、必然的に選べる機種はひとつ、「Cyber-shot DSC-F3」になる。なにしろこのモデルは、とにかくデザインがカッコイイし、質感もクラストップレベル。色もつや消しシルバーと黒が選べる。そのうえ記録速度も約1秒ときわめて高速で、使用感も実に軽快。

さらに、高速連写を生かした簡易動画記録(アニメ再生)も素敵。転送用ソフトである「Pic'n Roll」を使えば、簡

単にアニメGIFやホームページの作製もできる。惜しむらくは、内蔵メモリ専用機ということ。しかしメモリは8MBもあり、最大撮影枚数が200枚もあるのもメモリ容量は必要十分かも。転送速度さえ我慢すれば、リムーバブルの記憶メディアにこだわる必要はないだろう。また、赤外線での画像転送が行えるのも嬉しい。

画質面では最良ではなく、ノイズは少ないものの、むしろ解像度などはVGAのライバル機に比べてやや見劣りするくらい。このあたりはVGAなんだから……と割り切ってしまうしかない。

一方、VGAモデルを本格的なメインカメラとして使いたいという人なら、3倍ズーム付きの「DS-30」や「DC-3Z」がオススメ。便利だし、画質もいいし、コストパフォーマンスもいい。もっとも、今年後半には3倍ズームのメガピクセル機が続々登場するので、それをVGAモードで使うというほうが潰しが利くと思うけど……

今後のVGAクラスは、軽快で楽しいモデルがいい。画質なら高画素系のほうが有利だから、やっぱり遊び心のあるモデルをぜひとも選んでほしい。なかなかいい選択肢がないけどね。

Cyber-shot DSC-F3



山田久美夫
Kumio Yamada

いまや取材ものはもちろん、家族の写真までも完全にデジタルカメラがメイン。さらに仕事柄、国内で発売されている機種はすべて実写テスト済み。最近は原稿執筆がきわめて多いが、本職はフォトグラファ。

最終決断!

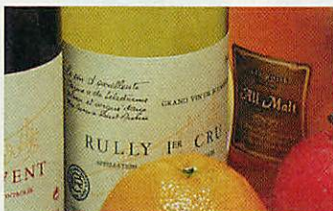
今買うミドルクラスデジカメはこれで決まり!

なかなか難しい位置にいる80万画素クラスのデジカメだが、画質の美しさに対する携帯性、コストパフォーマンスはピカイチ。主流となっている80万画素クラスのデジカメを集めて同じ被写体をハイクオリティで撮影してみたので、その画質を比べて、自分の好みにあったものを選んでみよう。



80万画素クラス唯一の一眼レフモデル C-1000L

フィルムカメラ愛好家には違和感なく使える一眼レフ感覚のデジカメ。TTL方式AFで確実に被写体を捉えることができる。動きのあるものを撮影する人には特にお勧めだ。ボディはずんぐりしているが軽いのに驚く。



高画質でコンパクトC-820L

81万画素なのに実売価格が35万画素クラス価格の6万円台という超お買い得カメラ。面倒くさい機能設定を極力減らしてあるので、ただただパチパチ撮る人にはおすすめ。液晶モニターは人気の低温ポリシリコンタイプだ。



プロの現場でも活躍 DC120 ZOOM

89万画素ながら補間機能で最大約120万画素に匹敵する高画質カメラ。シャッタースピードが1/500~16秒まで設定できるので、夜間撮影には抜群の威力を発揮する。アクセサリとして外部ストロボ端子も別売りされているので大型ストロボも使えるぞ。



歪みの少ない非球面レンズ搭載の DSC-X1

ポケットにすると入ってしまうコンパクトサイズながら、音声を撮影しながらとれる「ボイスメモ撮影」機能や、9面マルチ連写などの役立つ機能が満載。ゴルフやテニスなど、スポーツのお供にはうってつけのカメラだ。またカメラとしての質感、操作感、ユーザーインターフェイスの良さは特筆に値する。



低温ポリシリコン液晶がきれいな CP-500

レンズの回りがスイッチ&カバーになっているので、サッと取り出してパッと撮れる。2インチの低温ポリシリコンTFTは、日中でもとてもよく見える。高性能プリンタPM-750Cで出力すれば美しさにみんなビックリ。



大谷和利
Kazutoshi Ohtani

DSC-X1

80万画素クラスのデジタルカメラは、今とても微妙なポジションにある。ローコスト化したメガピクセル機に押されているのだ。今後は新たな普及クラスとなる可能性もあるものの、今はあえて手触りや操作性を求め、選んだのはDSC-X1だ。

このクラスは少し前の一般用ハイエンド機に当たるが、メガピクセル機の予想外の進展でポジションが曖昧となっている。さらに機能的には、著しく多機能化の進むVGA機(35万画素クラスのデジカメ)に水をあけられつつあり、中間管理職のように上下から挟まれてちょっと辛い立場なのだ。最近、このクラスの新機種発売のサイクルに勢いが感じられないのも、ポジションの曖昧さが原因なのだろう。

しかも、現在店頭に並んでいるこのクラスの、CP-500、CAMEDIA C-820L、DSC-X1は兄弟機で、画像処理に多少の

差はあっても基本的な機構はほぼ同一、液晶モニタはどれも低温ポリシリコンTFT、カメラの大きさも多少の違いのみと、機能や携帯性においてまで、明確な選択基準に乏しい。

また、実際は80万画素クラスのCCDを搭載しているが、補間することにより120万画素クラスの画質を得られるDC120 ZOOMも、発売当初はかなり目新しいものがあつたものの、今となっては一世代前の設計だ。

一方、この中ではいちばん新しい機種となるCAMEDIA C-1000Lは、35mm換算で50~150mmという望遠系ズーム

をどう捉えるかで評価が異なってくる。

そこで消去法的ではあるが、僕としてはあえてDSC-X1の操作感とユーザーインターフェイスの良さを採ることにした。DSC-X1は、VGAクラスだった先代の基本デザインを踏襲していて目新しさはないが、質感を高めた外装や撮影時の電源スイッチを兼ねるレンズカバーの開閉タッチ、親指操作できる背面の円形モードスイッチなど、感性系の完成度を詰める形で実質的な進化を果たしている。撮影・再生の処理速度がもう少し速いと良いのだが、これはこのクラス全般に対する要望だ。

星野万三
Manzo Hoshino

CAMEDIA C-1000L

インターネットでホームページに貼り込む画像なら35万画素でも十分だけど、家族の思い出や子どもの成長記録には、手軽で気楽にしかも美しい画像で記録を残しておきたい。そんな方には80万画素クラスのデジカメがおすすめ。特に、CAMEDIA C-1000Lで決まりだ!

CAMEDIA C-1000L(以下C-1000L)は、上位機種のカMEDIA C-1400LのCCDを85万画素にした普及モデルだ。ミドルクラスでは唯一の3倍ズームを搭載している。

かつてのオリンパスのカメラスタイルを引き継いでいるので、ボディはやや大きく重量も他の機種より平均40%近く重たい。女性には馴染まないかもしれないが、持ってみると案外軽いのはちょっと驚かされる。

ただこのカメラ、鞆に入るとゴロゴロして落ちつきが悪く、腰にぶら下げるには立方体すぎる。ポケットに入れて持ち歩

きたいなんて場合には、このデジカメは使えない。オリンパスさんそこら辺もう少し考えてほしかったなあ。

ズームは35mmカメラ換算で、50~150mmとやや望遠側にシフトしている(C-1400Lは36~110mm)。ワイド側はコンバージョンレンズを付けてでも、もう少し広角にしたいところだが、望遠側は結構被写体が目前に迫ってきて、迫力のある画像になるのでなかなか楽しい。

また他のすべての機種が、ファインダーとレンズ部が異なる方式なのにに対し、C-1000Lはフィルム用の一眼レフカメラと同じ光学一眼レフファインダーを採用して

いる。

光学一眼レフファインダーの利点はなんと言ってもバララックス(視差)がないこと。C-1000Lはレンズから入ってきた光をプリズムで片方はファインダー側に、一方はCCD側に送るため、ファインダーを見た画像がそのまま記録される。これ絶対にグーなんです。欲を言えば、光学ファインダー周りを、もう少し眼にじっくりくものにしてくれば言うことない。オプションでもいいからさ。

色の傾向は明るくメリハリの利いた彩度の高い、好感の持てる色調。現行機種の中では、これがおすすめです。

まつばらあつし
Atsushi Matshbara

CP-500

メガピクセルは値段が高くてちょっと待った、かといって41万画素以下じゃ画質が……なんてワガママな悩みを抱えているアナタには、画質はいい値段も手頃、というちょうどいいミドルクラスが実際一番お買い得。さてさて、それでは……。

だいたい世の中デカイものはデカイけれど、速いものは速ければ速い方が、多いものは多ければ多いほどエライ。ということで89万画素のDC120 ZOOMが一等賞!と、すんなり決まれば楽なのだが、個人的には「カッコがどうもヤダ」。

同じく横ホルドのCAMEDIA C-1000Lもこれ見よがしの格好が趣味じゃない。まあ、市場での評判は非常にイイんですけどね。かといってあまりにもコンパクトカメラっぽいCAMEDIA C-820Lもあと一歩。同社のM(ミュー)というカメラに通じる曲線主体のいいカタチなん

だけど、ちょっと図体がデカイ。もう一回り小さければね。

DSC-X1は、中身だけなら一等賞。写りも液晶も機能も抜群なんだけど、カタチがボクの趣味じゃない。カタチにこだわらなければベストバイに推すのだが……惜しい。

というわけで、ボクが選んだミドルクラスのベスト・バイはエプソンのCP-500、え? 理由? そりゃもうSPEEDが広告やCFIに出ているんだもの……と言ったら編集長に怒られるか。

いやこれは消去法でなくても最後まで候補に残る。カタチも良くはないが悪く

はない。少なくとも「ノーデザイン」ではないところがエライ。肝心の中身も81万画素クラスの中でも優秀。画質がイイというよりも撮れた写真の雰囲気がいい。デジタルカメラで撮ると、何となく曇り気が「画像」って言いたくなるようなデジタルカメラが多い中、コイツは「写真」として見られる数少ないヤツなのだ。豊富なバンドルソフトや、付属品もオールインワンでコストパフォーマンスもコレが一番! 余計な出費がかからないのが嬉しい。

ということで、ミドルクラスのベストバイはエプソンのCP-500ということで、よござんすか? SPEEDもCF出てるしさ……。

山田久美夫
Kumio Yamada

CAMEDIA C-820L

いまやちょっと中途半端な存在といえる80万画素クラス。サイズも極端に小さいわけじゃないし、価格的にも109万画素前後のモデルと変わらない。画質的には明らかにVGAよりもワンランク上だが、全体的に見て、デバイスから見ても妥協の産物だからね。

このクラスの機種選びはきわめて難しい。というのは、どの機種も中途半端な存在だからだ。

CCDというキーデバイスで見ても、CP-500、CAMEDIA C-820L、DSC-X1は、81万画素とはいえビデオの流用であり、補色系の長方画素でノイズ成分も多く、最初からデジタルスチルカメラを意識したものではない。その点、CAMEDIA C-1000Lは1/2インチと大きく、しかも原色系の正方画素と理想的。また、DC120 ZOOMも長方画素とはいえ、89万画素の原色系と画質面で有利なものといえる。この2グループは機能やサイズの面

で見ても、前者は単焦点式、後者は3倍ズームであり、ボディサイズも大きく異なる。つまり、いつでもどこでも持ち運び、気軽に使いたいのであれば81万画素三兄弟、機能や画質重視なら原色系の3倍ズーム機となる。

あえて一機種だけ選ぶなら、もっともコンパクトなCAMEDIA C-820Lとしたい。色調は決していいとはいえず、肌色が緑色っぽくなるのは×だし、液晶使用時の記録時間の長さにも閉口するが、この携帯性のよさは評価できる。カメラ操作も簡単なので、これならコンパクトカメラ感覚で誰にでも使える。

また、コストパフォーマンスを考えれば断然CP-500。接続キットや豊富な画像関係ソフトまで付属しているオールインワンパッケージであるうえ、価格もこなれていて、色再現性もなかなかよく、お買い得だ。

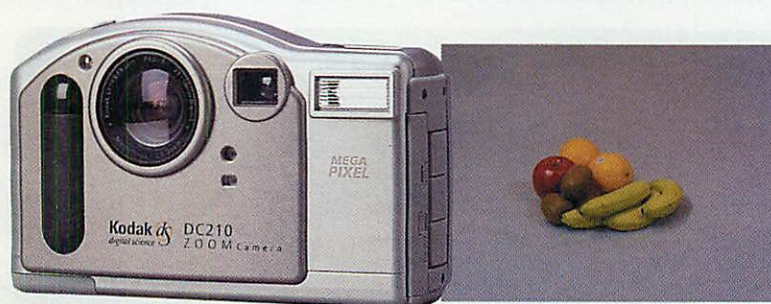
一方、画質を優先するなら、CAMEDIA C-1000L、DC120 ZOOMのいずれもオススメ。画像のシャープネスなら前者、見栄えのする色再現なら後者を選びたい。

だが、今は、あえて選ぶべきクラスではないというのが正直なところ。少なくとも、現行機はいずれも中途半端だ。

最終決断!

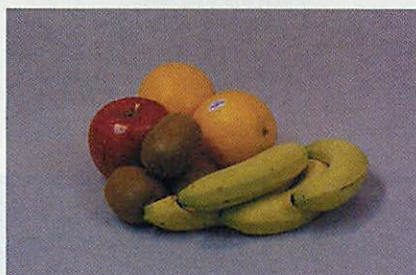
今買うハイエンドデジカメはこれで決まり!

ちょっと前までは価格的に手が出なかった100万画素以上のデジカメも、今では高性能なものが10万円を切る価格で登場し、今後はこのクラスが主流になりつつある気配がしている。今回は、一般の方でも少々無理をすれば購入できる機種と考え、100万画素クラスで30万円以下の価格のものを選んでみた。まだ4機種ほどしかないのだが、100万画素以上の画質とはどんなものなのか、実際に見てみて下さい。なんとなく創作意欲が湧いてくるでしょ。



FlashPixにも対応 DC210 ZOOM

独特なスタイルと109万画素ながら80万画素クラスと同じ価格設定のハイコストパフォーマンス機。新画像形式FlashPixやIrDAでコードレスデータ転送ができるなど、新機能が満載。また好みの問題になってしまうが、流線型のデザインも洒落ている。



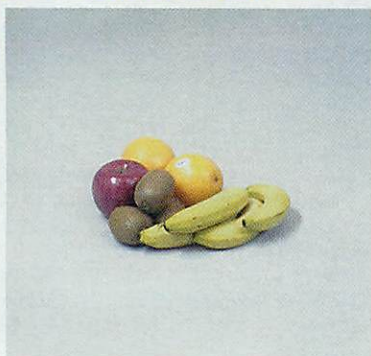
プロも絶賛 DS-300

あらゆる条件で撮影することを前提に設計されたDS-300はプロのカメラマンも絶賛するほど。ただ写すのではなく、自分という意志を通して映像を記録・創作したい人には絶対おすすめ。アクセサリー類も豊富だ。



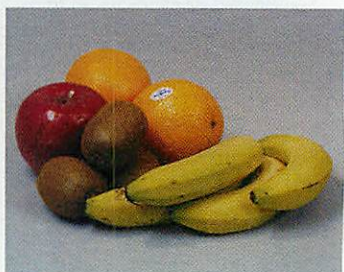
コニカ自慢のレンズを搭載Q-M100

使い勝手は35万画素クラスだが、109万画素CCDで画質には徹底的にこだわったコンパクトカメラ。価格を抑えるために液晶ファインダーがイマイチなのと単焦点レンズなのが不満だが、自然な色調は好感が持てる。



コストパフォーマンス抜群の CAMEDIA C-140OL

ちょっと前までは絶対に10万円以下ではできなかった141万画素カメラを、なんと実売価格9万円台で作ってしまったオリンパスにはただただ脱帽するのみ。TTL方式AFはスポーツ撮影で威力を発揮。売れば売るほど赤字覚悟というこのカメラ。安くて多機能、画質もキレイとくれば、もう買わない手はないでしょ。



大谷和利
Kazutoshi Ohtani

DS-300

メガピクセルクラスは今もっとも動きがある。街の写真店のデジタルプリントへの対応も進み、サービスレベル程度なら銀塩写真にも匹敵する。個々のモデル特性も価格設定もはっきりと分かれ、目的や予算で自ずから選択肢が決まるが、パーソナルチョイスは速写性を重視しDS-300だ。

今年はさらなるメガピクセル競争の激化が予想され、140~150万画素クラスの製品がより低価格になって登場しそうだ。それを踏まえて今の機種を選ぶかは難しいが、現行機種はそれぞれの特性がはっきりしている点が救いである。

たとえば、手軽にメガピクセルの画質を楽しみたいなら109万画素(実効100万画素)CCDを採用したDC210 ZOOMかQ-M100。前者はパンフォーカスだが35mm換算で29mmという広角からの2倍ズームを持ち、後者は画質の面で有利なオートフォーカスと35mm換算で39mmの単焦点レンズを持つので、そのあたり

が選択のポイントとなる。使用目的によって選択する機種は異なるが、オールマイティに使うならDC210 ZOOM、じっくり撮影するならQ-M100といったところだ。ただし、個人的にはQ-M100のデザインはどうしてもなじめない。

CAMEDIA C-1400Lは、実効130万画素レベルの性能とコストパフォーマンスを両立させた点が魅力だが、銀塩カメラの使い勝手を期待していると、電池の持ち、メディア1枚あたりの撮影枚数、処理のレスポンスの3つの点でがっかりする。ただ、これはコスト配分の問題なので、その分、光学系にお金をかけ、高画

質をこの価格で提供できるようにしたと思って割り切れるならベストチョイスにもなる(個人的なニーズからは、ビデオ出力のない点がマイナス要因だが)。

結局、パーソナルチョイスとして選んだのはDS-300だ。他機種に比べて実売価格でも割高で、ファインダーの視野率の低さやバラックスの大きさに難があるため、他クラスのベストバイと異なって万人向けの選択ではない。しかし、電池の持ちや撮影枚数、標準でも約1コマ/秒の撮影が可能な速写性を含むシステムとしての完成度は高い。その意味で最も力学的に使える製品と言えるのである。

竹澤宏
Hiroshi Takezawa

DS-300

100万画素以上では、従来の遊びのツールや仕事上のメモ代わりではなく、より明確な目的をもって選択するクラスだ。具体的に「それ」を撮りたいから、「この」機種では、といった形で選ぶべき機種は決まる。ところが人間は常に欲深く、あれもこれもと、理想のデジカメを求めてしまう……

もしCAMEDIA C-1400Lにマニュアル設定(露出、フォーカス、そして外部ストロボ端子など)ができる機能が付き、現状では8MBまでしか用意されていないスマートメディアが32MBくらいまで安価で手に入るようになり、かつリチウムイオンかニッケル水素などの専用バッテリーが用意され、しかも願わくばレンズ交換可能で、価格が30万円以下であったなら、絶対に「買い」である。理由は簡単。「仕事でも使える」からだ。

ところが、現状ではそうはならない。一眼レフでないことの使いにくさはあるものの、結局マニュアル設定ができて外部

ストロボも使える、DS-300を選ばざるを得ない局面は多いだろう。業務用途、仕事からみて考えると、今のところではDS-300しか選択の余地がないのである。もちろん「仕事」なんだから少々「勉強」も必要になってくる。

「て、ゆーか、そうじゃなくて、もちろん仕事でも使いたいたけども、もっと簡単に使えて、プライベートでも高画質が楽しめる機種はないの〜?」という人には、DC210 ZOOMやQ-M100などの、普通のコンパクトカメラタイプがおすすめだ。特にDC210は色再現性に優れた解像感に負けていない。ワイド端で

29mm相当は評価に値する。

で、CAMEDIA C-1400Lはどうなのか? という点、趣味の最高峰をめざす人にはおすすめ。

結局僕は、このクラスの現状で隠れたライバルは、もしかしたらDVビデオカメラではないかと思っている。きっちり「静止画」で勝負できるデジカメを待ち望んでいる。



フォトグラファー、マルチメディアアスクール・ホーム講師。アナログ写真は4×5の商品撮影からデジタルカメラでのQTVRの撮影と処理まで。デジカメは主にインターネット用の制作で使っている。

星野万三
Manzo Hoshino

DS-300

メガピクセル(100万画素)を超えると俄然画質の良さが際立つ。現在のところ(98年1月)30万円以下でのメガピクセルはたった4台しかないが、今年は200万画素クラスや100万画素で5万円以内の機種も出るらしい。デジカメもいよいよメガピクセルの時代に移行しそうだ。

ワシも一応プロカメラマンの端くれなので、ハイエンドカメラとなるとどうしても仕事に使えるものが前提となってしまう。実際どう仕事に使うかというと、別にフィルム代や現像代をケチるためではなく「ケチりたいほど画質は高画質で、小さなカットなら十分印刷に耐える」、ボラロイドの替わりに使いたいのである。スタジオでの商品撮影や、取材時でのストロボの光の回り具合や構図をチェックするには、通常ボラロイドを使用する。そこをデジカメを使用することにより、コストの削減と時間の短縮が可能になるのだ。しかしそのためには、外部ストロボ用の

シンクロターミナルと、絞りとシャッタースピードを自在に設定できるマニュアルモードが必要だ。現在30万円以下のデジカメでこの条件を満たしているのは唯一DS-300だけだ。

DS-300の開発コンセプトは、一眼レフのフィルムカメラにも負けない再現性を持つデジカメなので、当然普及型カメラ以上の画質を誇る。メモリはPCカードを使用し大容量にも対応している。しかもPCカードアダプタがあれば、スマートメディアでもコンパクトフラッシュでも使えるので、メモリの種類を選ばない。

またデジタルカメラの弱点のひとつに

連写機能がある。1コマ撮ってはメモリに書き込むのでどうしてもスピードに制約が生じる。その点DS-300はエクステンションユニットEU-DA3を使って秒速4.5コマ、最大12コマまで連写ができる。競馬写真やサッカーのような動きの速いものでも追いかけて撮影できるので、今後はスポーツ写真の分野でも期待が膨らむ。

また別売りの液晶モニターを使えば、DS-300の弱点であるバラックス(視差)を解消することもできるし、スタジオなどではビデオ出力端子を使ってTVモニターに直接写して、構図やライトバランスもチェックできる。

山田久美夫
Kumio Yamada

Q-M100, DC210 ZOOM

ようやく出揃い始めたパーソナル向けメガピクセルクラス。まだ機種は少ないものの、今後主流になる高画素クラスとしてその動向が大いに注目される。画質面でもVGAクラスとは比較にならないレベルだし、価格もこなれてきているので、一足先に高画質を体験したい人はそろそろいいかも。

今一番魅力的なのは、やっぱりメガピクセルクラス。なにしろハガキサイズくらいにプリントしても、写真と変わらないほどシャープで、実に気持ちがいいもの。価格もこなれてきており、コンパクトカメラ代わりに使うのもいい。もっとも、正直言って、たった1枚の画像でも、展開時には3~4MBにもなってしまう。ローパワーなMacではやや動作に重さを感じるのも確かだし、シリアル転送ではじれったいので、PCカードリーダーは必需品と言ってもいいだろう。

このクラスで一番のオススメ機種……といっても、解像度で選べば断然

CAMEDIA C-1400Lでキマリ! なのだが、本機は一眼レフであり、カメラの知識がないと使いこなすのも難しいうえ、感度が低いのでカメラブレの心配も多い。「誰にでも安心して」オススメできる機種ではない(実際にWebや雑誌でも微妙にブレた画像が平気で掲載されているケースも多い)。CAMEDIA C-1400Lは、若干使いこなすのが難しくてもメガピクセル機ならではの解像度を堪能したい! という人に適したモデルといえる。

むしろ、ごく普通にメガピクセル機を使いたい人には、108~109万画素クラスであり、ちょっと高めだがバランスのいい

Q-M100や、ワイド系2倍ズーム付きで価格もこなれたDC210 ZOOMをオススメしたい。

Q-M100は単焦点式だがAFで解像度も高く、感度も高いのでブレにくい点に好感が持てる。DC210 ZOOMはパンフォーカスでピントはコニカよりも若干甘めだが、2倍ズームで便利だし、絵作りもきれいで、実売価格も5万5,000円前後とお買い得。

今後の主流は130~160万画素クラスに移行するし、今年は数多くの機種が登場するので、あと半年待つと、状況がガラリと変わるけどね。

これで断! 今ベストバイの デジカメはここから選べ!

当カタログページでは35万画素から100万画素まで、現在主流となっている35機種を集めてみた。今年も続々と新製品が発売されることは火を見るより明らかなのだが、本特集は「もう待てない!」ということを中心にしているし、必ずしも新しいものが良いとは限らない。今までのチェックポイントを踏まえ、ぜひより良いパートナーを見つけてほしい。



イメージ写真撮影機種
CAMEDIA C-1400L



ソニー(株)TEL03-5448-3311/価格 6万8,000円/画素数 35万画素/液晶モニタ 1.8インチTFT/記憶媒体 8MB内蔵フッシュメモリ/撮影枚数 最大60枚(ファイン)、最大105枚(スタンダード)、最大200枚(エコノミー)/オプション パソコン接続キット(DSKIT-PC4)、デジタルピクチャーアルバム(DPA-1)、PCカードストレージ(DSAC-PCS1)/サイズ(W×H×D)102×77.8×40.8mm/重さ 280g(電池含まず)

Cyber-shot DSC-F3



ソニー(株)TEL03-5448-3311/価格 12万5,000円/画素数 35万画素/液晶モニタ 2.5インチTFT/記憶媒体 MDデータディスク/撮影枚数 1,000枚(ファイン)、2,000枚(スタンダード)/オプション アクセサリーキット(ACC KIT-MD1)、パソコン接続キット(DSKIT-PC4)、デジタルピクチャーアルバム(DPA-1)/サイズ(W×H×D)87×116×56mm/重さ 490g(本体のみ) 2月10日発売予定

MD Cyber-shot DSC-MD1



ソニー(株)TEL03-5448-3311/価格 8万8,000円/画素数 41万画素/液晶モニタ 2.5インチTFT/記憶媒体 3.5インチ2HDフロッピーディスク/撮影枚数 最大20枚(ファイン)、最大40枚(スタンダード)/オプション アクセサリーキット(ACC KIT-FDC)、ワンタッチテレコンバージョンレンズ(VLC-ES20)/サイズ(W×H×D)126.5×110.5×73.3mm/重さ 600g(本体のみ)

Digital Mavica MVC-FD7



オリンパス光学工業(株)TEL0426-42-7499/価格 6万4,800円/画素数 35万画素/液晶モニタ 2インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属2MBスマートメディア使用 8枚(高画質2)、20枚(高画質1)、80枚(標準画質)/オプション パソコン接続キット(C-2KP/C-3KP)、PCカードアダプタ(MA-1)、スマートメディア標準カード(M-4P)/サイズ(W×H×D)128×65×45mm/重さ 260g(電池含まず)

CAMEDIA C-420L



カシオ計算機(株)TEL03-5334-4111/価格 3万8,000円/画素数 25万画素/液晶モニタ 1.8インチTFT/記憶媒体 2MB内蔵フッシュメモリ/撮影枚数 96枚(標準)/オプション パソコンリンクソフトウェア Macintosh版(LS-8M)、パソコンリンクケーブルMacintosh用(QC-2M)、データ転送ケーブル(SB-62)/サイズ(W×H×D)130×66×40mm/重さ 約170g(電池含まず)

QV-11



カシオ計算機(株)TEL03-5334-4111/価格 3万8,000円/画素数 25万画素/液晶モニタ 1.8インチTFT/記憶媒体 2MB内蔵フッシュメモリ/撮影枚数 96枚(標準)/オプション パソコンリンクソフトウェア Macintosh版(LS-8M)、パソコンリンクケーブルMacintosh用(QC-2M)、データ転送ケーブル(SB-62)/サイズ(W×H×D)130×66×34mm/重さ 約150g(電池含まず)

QV-70



カシオ計算機(株)TEL03-5334-4111/価格 5万円/画素数 36万画素/液晶モニタ 1.8インチTFT/記憶媒体 4MB内蔵フッシュメモリ/撮影枚数 64枚(詳細)、192枚(標準)/オプション パソコンリンクソフトウェアMacintosh版(LS-8M)、パソコンリンクケーブルMacintosh用(QC-2M)、データ転送ケーブル(SB-62)/サイズ(W×H×D)141×66×40mm/重さ 約190g(電池含まず)

QV-200



カシオ計算機(株)TEL03-5334-4111/価格 7万5,000円/画素数 35万画素/液晶モニタ 2.5インチTFT/記憶媒体 コンパクトフラッシュカード/撮影枚数 14枚(高画質)、26枚(標準)、47枚(エコノミー)/オプション パソコンリンクソフトウェア(LS-8M)、パソコンリンクケーブル(QC-2M)、データ転送ケーブル(SB-62)、コンパクトフラッシュカード/サイズ(W×H×D)147×69×50mm/重さ 約290g(電池含まず)

QV-700



●Apple QuickTake 200



アップルコンピュータ(株) FAX AID 03-3391-1200/価格 7万9,800円/画素数 35万画素/液晶モニター 1.8インチ/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 最大22枚(高画質)、最大30枚(標準画質)/オプション 4MBスマートメディアカード(M5708G/A)/サイズ (W×H×D)129×77×47mm/重さ 約240g(電池含まず)



●DS-10



富士写真フイルム(株) TEL03-3406-2981/価格 3万9,800円/画素数 35万画素/液晶モニター なし/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 約22枚(ファイン)、約30枚(標準)/オプション Mac用インターフェイスセット(IF-CL/M)、PCカードアダプタ(PC-AD)など/サイズ (W×H×D) 112×66×40mm/重さ 約160g(本体のみ)



●DS-20



富士写真フイルム(株) TEL03-3406-2981/価格 6万3,000円/画素数 35万画素/液晶モニター 1.8インチ/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 約22枚(ファイン)、約30枚(標準)/オプション Mac用インターフェイスセット(IF-CL/M)、PCカードアダプタ(PC-AD2)など/サイズ (W×H×D) 128×70×46mm/重さ 約250g(本体のみ)



●DS-30



富士写真フイルム(株) TEL03-3406-2981/価格 7万9,800円/画素数 35万画素/液晶モニター 2インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 約22枚(ファイン)、約30枚(標準)/オプション Mac用インターフェイスセット(IF-CL/M)、PCカードアダプタ(PC-AD2)など/サイズ (W×H×D) 132×68×51mm/重さ 約290g(本体のみ)



●COOLSHOT II LK-RQ1Z



松下電器産業(株) TEL03-3834-2941/価格 5万4,800円/画素数 35万画素/液晶モニター 1.8インチ/記憶媒体 コンパクトフラッシュカード/撮影枚数 付属の2MBコンパクトフラッシュカード使用時 24枚(ファイン)、85枚(ノーマル/ズーム)/オプション パソコン接続キット(LK-RAAQ026)、着脱式フラッシュ(LK-RAAQ027)など/サイズ(W×H×D)91×31.5×60mm/重さ 約142g(電池、メモ리카ードを除く)



●COOL SHOT KXL-600A-N



松下電器産業(株) TEL03-3834-2921/価格 4万9,800円/画素数 36万画素/液晶モニター なし/記憶媒体 コンパクトフラッシュカード/撮影枚数 付属2MBコンパクトフラッシュカード使用 24枚(ファイン)、96枚(ノーマル)/オプション 1.8インチ液晶モニター(KXL-D50-N)、接続キット(KXL-D43-N)、PCカードアダプタ(KXL-D55-N)、コンパクトフラッシュ/サイズ(W×H×D)25×134×69mm/重さ 約140g(本体のみ)



●Card Shot NV-DCF1



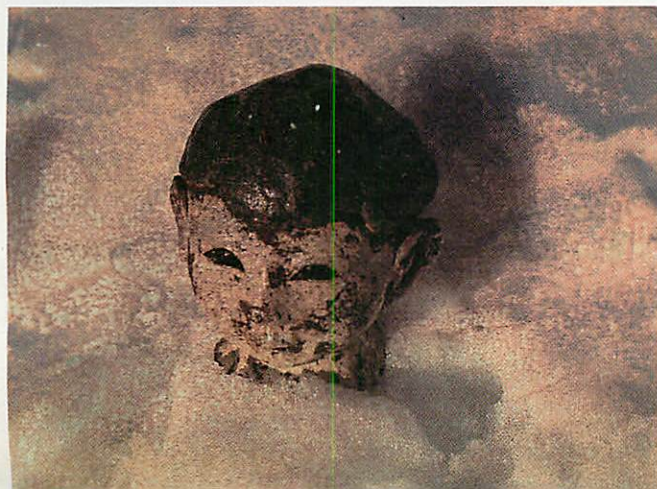
松下電器産業(株) TEL0120-878-365/価格 6万9,800円/画素数 35万画素/液晶モニター 1.8インチMIM/記憶媒体 コンパクトフラッシュカード/撮影枚数 付属の2MBコンパクトフラッシュ使用 11枚(ファイン)、23枚(ノーマル)、47枚(エコノミー)/オプション パソコン接続キット(VW-PCK1)、コンパクトフラッシュ/サイズ(W×H×D)93×94×51.3mm/重さ 290g(本体のみ)



●DC-2S



(株)リコー TEL0120-000475/価格 10万8,000円/画素数 41万画素/液晶モニター 1.8インチTFT/記憶媒体 4MB内蔵フラッシュメモリ、PCカード(別売)/撮影枚数 20枚(ファイン)、41枚(ノーマル)、82枚(エコノミー)/オプション 通信接続キット(SK-2)、接続キット(DU-2M)、リモートコントローラ(DR-2)、PCカード/サイズ(W×H×D)143×27×76mm/重さ 285g(本体のみ)



●DC-3



(株)リコー TEL0120-000475/価格 4万9,800円/画素数 35万画素/液晶モニター 1.8インチTFT/記憶媒体 4MB内蔵フラッシュメモリ/撮影枚数 25枚(ファイン)、50枚(ノーマル)、100枚(エコノミー)/オプション 接続ケーブル(CC-3M)、DC-3対応ソフトウェア(PS-3)、リモートコントローラ(DR-2)/サイズ (W×H×D) 125.8×34×72.6mm/重さ 230g(バッテリー含まず)



DC-3Z



(株)リコー TEL0120-000475 / 価格 6万8,800円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 1.8インチ TFT / 記憶媒体 スマートメディア / 撮影枚数 付属の4MBスマートメディア使用時 約24枚(ファイン)、約49枚(ノーマル)、約99枚(エコノミー) / オプション Macintosh用接続ケーブル(CC-3M)、ユーティリティ(DD-3M)、リモートコントローラ(DR-2) / サイズ(W×H×D)125.8×36×72.6mm / 重さ 260g (バッテリー含まず)



PowerShot 350



キヤノン販売(株) TEL043-211-9556 / 価格 6万9,800円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 1.8インチ / 記憶媒体 コンパクトフラッシュカード / 撮影枚数 付属の2MBコンパクトフラッシュカード使用時 11枚(ファイン)、23枚(ノーマル)、47枚(エコノミー) / オプション Macintosh用 接続キット(PK350M)、PCカードアダプタ、コンパクトフラッシュカード / サイズ(W×H×D)93×94×51.3mm / 重さ 約290g (電池含まず)



Q-mini



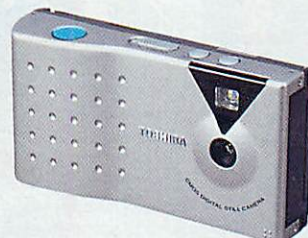
(株)コニカ・サービス TEL042-586-7113 / 価格 6万9,800円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 1.8インチ MIM / 記憶媒体 コンパクトフラッシュカード / 撮影枚数 付属の2MBのコンパクトフラッシュカード使用時 11枚(ファイン)、23枚(ノーマル)、47枚(エコノミー) / オプション パソコン接続キット(DT-QM-3501)、PCカードアダプタ / サイズ(W×H×D)93×94×51.3mm / 重さ 290g (電池含まず)



DSC-V1



三洋電機(株) TEL0720-70-4184 / 価格 8万円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 2インチ TFT / 記憶媒体 4MB内蔵フラッシュメモリ / 撮影枚数 60枚(高画質モード)、120枚(標準モード) / オプション パソコン接続キット(PCK-V1) / サイズ(W×H×D)138.5×65.5×43mm / 重さ 約260g (電池含まず)



Allegretto PDR-2



(株)東芝 TEL03-3457-8404 / 価格 5万9,800円 / 画素数 33万画素 / 液晶モニターなし / 記憶媒体 スマートメディア / 撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 24枚(ファイン)、48枚(スタンダード) / オプション 4MBスマートメディア(IPC0005A) / サイズ(W×H×D)105×55×20mm / 重さ 130g (電池含まず)



Dimage V



ミノルタ(株) TEL03-5423-7555 / 価格 7万9,800円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 1.8インチ / 記憶媒体 スマートメディア / 撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 約16枚(ファイン)、約40枚(スタンダード) / オプション PCインターフェイスキット Macintosh用、PCカードアダプタ(CA-1S)、PCカードドライブ(CD-10) / サイズ(W×H×D)131×71.5×37mm / 重さ 約250g (電池含まず)



VE-CL2

シャープ(株) TEL0120-078178 / 価格 6万円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 2.5型 / 記憶媒体 4MBフラッシュメモリ / 撮影枚数 付属の4MBフラッシュメモリ使用時 約30以上(ファイン)、約60枚(標準)、120枚以下(エコノミー) / オプション パソコン接続ケーブル(VR-PCB30)、デジタル静止画転送ソフト(VR-PK31-A)など / サイズ(W×H×D)108.5×30×61mm / 重さ 約260g



MD-PS1



シャープ(株) TEL0120-078178 / 価格12万9,800円 / 画素数 35万画素 / 液晶モニター 1/3型 / 記憶媒体 MD データディスク / 撮影枚数 最大1,000枚(ファイン)、最大2,000枚(標準) / サイズ(W×H×D)120×51×111mm / 重さ 約550g (電池含む)



MP-EG10



(株)日立製作所 TEL0120-147-226 / 価格 15万8,000円 / 画素数 39万画素 / 液晶モニター 1.8インチ TFT / 記憶媒体 PCカード(Type III)ハードディスク / 撮影枚数 260MB PCカードハードディスク使用時 約3,000枚 / オプション SCSIインターフェイスキット(MP-ADS1)、PCカード(Type III)ハードディスク(MP-HD170、MP-HD260) / サイズ(W×H×D)83×143.5×56mm / 重さ 385g (本体のみ)



●CAMEDIA C-1000L



オリンパス光学工業(株)TEL0426-42-7499/価格 9万9,800円/画素数 85万画素/液晶モニター 1.8インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の4MBスマートメディア使用時 6枚以上(SHQモード)、20枚以上(HQモード)、49枚以上(SQモード)/オプション パソコン接続キット(C-2KP/C-3KP)、PCカードアダプタ(MA-1)、スマートメディア標準カード(M-4P)/サイズ(W×H×D)115×83×130mm/重さ 470g(電池含まず)



●CAMEDIA C-820L



オリンパス光学工業(株)TEL0426-42-7499/価格 8万4,800円/画素数 81万画素/液晶モニター 2インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の2MBスマートメディア使用時 4枚以上(高画質2)、10枚以上(高画質1)、30枚以上(標準画質)/オプション パソコン接続キット(C-2KP/C-3KP)、PCカードアダプタ(MA-1)など/サイズ(W×H×D)128×65×45mm/重さ 265g(電池含まず)



●EPSON CP-500



エプソン販売(株)TEL0424-99-7111/価格 8万9,800円/画素数 81万画素/液晶モニター 2インチTFT/記憶媒体 4MB内蔵フラッシュメモリ、コンパクトフラッシュカード(別売り)/撮影枚数 内蔵4MBフラッシュメモリ使用 7枚以上(高詳細)、16枚以上(詳細)、50枚以上(標準)/オプション 通信キット(CP500CMK)、コンパクトフラッシュカード/サイズ(W×H×D)143×70×49mm/重さ 約280g



●DC120 ZOOM



日本コダック(株)TEL03-5488-2390/価格 12万4,800円/画素数 89万画素/液晶モニター 1.6インチ/記憶媒体 2MB内蔵メモリ、コンパクトフラッシュカード(別売り)/2MB内蔵フラッシュメモリ使用時 2枚(最高画質)、7枚(高画質)、12枚(標準)、20枚(スナップ)/オプション パソコン接続キット(IKF-120)、フラッシュ同期ケーブル(FSYC-120)/サイズ(W×H×D)108×55×146mm/重さ 520g(電池含まず)



●DSC-X1



三洋電機(株)TEL0720-70-4184/価格 8万5,000円/画素数 81万画素/液晶モニター 2インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の4MBスマートメディア使用時 12枚(S-Hi 1モード)、24枚(S-Hi 2モード)、60枚(Hiモード)/オプション パソコン接続キット(PCK-X1)/サイズ(W×H×D)138.5×65.5×43mm/重さ 270g(電池含まず)



●DS-300



富士写真フイルム(株)TEL03-3406-2950/価格 24万8,000円/画素数 140万画素/液晶モニター なし/記憶媒体 PCカード(Type III)、スマートメディア/撮影枚数 20MBのPCカード使用 8枚(Hi)、30枚(Fine)、62枚(Normal)、121枚(Basic)/オプション エクステンションユニット(EU-D3/EU-D3A)、液晶モニターキット(PA-D3C)など/サイズ(W×H×D)153×96×78mm/重さ 約620g(バッテリー含まず)



●CAMEDIA C-1400L



オリンパス光学工業(株)TEL0426-42-7499/価格 12万8,000円/画素数 141万画素/液晶モニター 1.8インチTFT/記憶媒体 スマートメディア/撮影枚数 付属の4MBスマートメディア使用時 4枚以上(SHQ)、12枚以上(HQ)、49枚以上(SQ)/オプション パソコン接続キット(C-3KP)、PCカードアダプタ(MA-1)、スマートメディア標準カード(M-4P)/サイズ(W×H×D)115×83×130mm/重さ 470g(本体のみ)



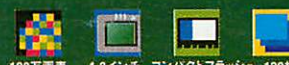
●DC210 ZOOM



日本コダック(株)TEL03-5488-2390/価格 8万1,000円/画素数 109万画素/液晶モニター 1.8インチTFT/記憶媒体 コンパクトフラッシュ/撮影枚数 付属4MBコンパクトフラッシュ使用時(記録画素数 High、FlashPix形式時)12枚(Best)、17枚(Better)、26枚(Good)/オプション パソコン接続キット(IKF-210M)、コンパクトフラッシュ、カードアダプタ(KPC-AD)/サイズ(W×H×D)131×82×48mm/重さ 320g(電池含まず)



●Q-M100



(株)コニカ サービスTEL042-587-1044/価格 9万9,800円/画素数 108万画素/液晶モニター 1.8インチ/記憶媒体 コンパクトフラッシュカード/撮影枚数 付属の4MBコンパクトフラッシュカード使用時 10枚(スーパーファイン)、20枚(ファイン)、50枚(エコノミー)/オプション Q-M100用PC接続キット(QM-PC1)/サイズ(W×H×D)119×76×50.7mm/重さ 290g(電池含まず)

